ふるさとの誇り 142

まる博レポート

写真が語るたべもの風物誌

左上：西野地区の昭和初期頃の写真で、サクランボの木の下に麦畑が広がっています。穂が実っていますので麦秋の頃でしょうか。ちょうどサクランボも収穫しており、まさにこの地域ならではの風景と言えます。
右上：上今井のお宅の写真で昭和28年頃とみられます。ちゃぶ台の下におひつが見えます。
右下：箱火鉢を傍らに、湯気の立つうどんが印象的な正月の風景です。

上：昭和20年代末～30年代初め頃とみられるお正月の食事風景です。裸電球のもと、大家族が集まって熱々の鍋を囲んでいます。鍋の中身はすき焼きでしょうか。ちゃぶ台の上には田作りや黒豆も見えます。今もあるお正月の風景は、すでにこの頃にもあったようです。
下：昭和34年頃の上八田地区での写真ですが、少年たちの周りには一面麦畑が広がっています。

食卓を囲む大家族や畑の中の子どもたち。なんとも懐かしい雰囲気の写真です。

これらはいずれも市内の各家庭に残されていた写真で、ふるさと〇〇（まるまる）博物館では、このような何気ない写真やモノから、当時の暮らしや風景、産業などを読み取り地域の物語を紡いでいます。

南アルプス市は、「根方」「原方」などと呼ばれるように変化に富んだ地形をしており、その土地その土地に適した生業や食文化が育まれてきました。

御勅使川扇状地は、「原七郷はお月夜でも焼ける」と言われるほどの乾燥地帯で、水田に適さないため古来さまざまな生業に挑戦し、営み続けてきました。小麦もそのひとつで、江戸時代の終わりごろに甲斐国に来訪した宮崎県の修験者・泉光院の日記には、在家塚で「当国の名物ハウタウ」を馳走として振る舞われたと記されています。「ほうとう」のことで、まさに小麦の生産地ならではであり、おもてなしの料理であったことがわかります。

また、お正月などの「ハレの日」に「うどん」を食べる風習も残ります（「ウドン正月」と呼ぶ研究者もいます）。次頁右下の写真は中野地区のもので、お正月のとある伝統行事の様子ですが（行事については別機会にご紹介します）、いずれにしてもお正月にうどんを食べる風習があることを物語っています。

各家に残る古い写真からは、そのような暮らしの一端をのぞき見ることができます。たまたま写りこんだ風景に当時の様子を紐解くヒントが隠されていることも多いのです。

いよいよ五月十八日に、ふるさと文化伝承館がリニューアルオープンします。記念すべき最初のテーマ展では、数々の民具や古写真から、南アルプス市ならではの「食」の物語を紡ぎます。ぜひお立ち寄りください。

写真・文　文化財課

※南アルプス市一帯は、地形的特長によって「山方」「根方」「原方」「田方」地域と区別して呼ばれてきました。

お待たせしました！

ふるさと文化伝承館

5／18（土）
リニューアルオープン！

9：00～ オープニングセレモニー・内覧会
10：00～ 一般公開

小さな展示館ですが、子どもたちにも大人にも嬉しい展示内容へと様変わりしました。
世界に誇る縄文文化や、南アルプス市の歴史と風土を体感できる内容となっています。
「ふるさと〇〇博物館」の拠点として充実させ、地域の方の暮らしが感じられる展示や体験も一つの見所になっています。「子宝の女神　ラヴィ」も皆さまのお越しをお待ちしています！

オープニング記念テーマ展
「ふるさと〇〇博物館
～南アルプスたべもの風物誌」

住所：南アルプス市野牛島2727／電話：055-282-7408
入館無料／木曜・年末年始休館